

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成25年7月11日
TB13-0439

ヒトiPS細胞を培養するための研究用試薬の販売契約を締結

タカラバイオ株式会社は、株式会社ニッピが製品化したヒトiPS細胞の培養等に使用するラミニンフラグメントを、当社が全世界で販売する契約を本日付で締結しました。当社は、当該製品の日本での販売を本年7月16日より開始します。

ヒトiPS細胞やヒトES細胞のような多能性幹細胞の培養には、培養容器に“足場”となる材料が必要となります。従来では、この“足場”となる材料として主にマウスの細胞が使用されていますが、この培養方法ではヒト多能性幹細胞を再生医療に利用する場合に、この“足場”材料のマウスの細胞の混入など、安全性に問題があります。動物細胞に代わる“足場”として、現在は培養容器に特定のタンパク質をコーティングすることでヒト多能性幹細胞の培養が可能となっています。

本製品は、大阪大学と京都大学で開発されたラミニンフラグメントであり、iPS細胞を培養する際に使用すると、既存の“足場”タンパク質と比べて、約200倍以上の効率的な培養が可能となります*。また、通常、iPS細胞を単一細胞にすると培養することが困難でしたが、本製品を使用することで単一細胞からも効率よくiPS細胞のコロニーを大量に作成することができます。本製品はiPS細胞を用いた基礎研究や再生医療分野に広く利用されることが期待されます。

現在、政府の先端医療分野への研究支援が増加しており、国内のアカデミアを中心に、iPS細胞を用いた再生医療の基礎研究や臨床研究が盛んに行われようとしています。このような状況の中、当社は、幹細胞を用いた研究に関する製品の自社開発や導入品の拡販により、この分野での売上の拡大に注力いたします。

*文献: Miyazaki, T. et al : Laminin E8 fragments support efficient adhesion and expansion of dissociated human pluripotent stem cells. Nat. Commun., 3 : 1236, 2012

【製品概要】

製品名	製品コード	容量	標準価格(税込)
iMatrix-511	T300	350 μ g (175 μ g \times 2 本)	56,700 円
	T301	1,050 μ g (175 μ g \times 6 本)	126,000 円



製品・サービスの詳細やご購入については、当社営業部営業企画担当 (TEL:077-543-7231) にお問い合わせください。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この件に関するお問い合わせ先
 タカラバイオ株式会社
 事業開発部
 Tel 077-543-7235

<参考資料>

【ニッピ社の概要】

会社名 : 株式会社ニッピ
設立 : 1907 年
代表者 : 伊藤 隆男
住所 : 東京都足立区千住緑町 1-1-1
事業概要 : 試薬・理化学機器の開発・販売、研究支援サービス
コラーゲン・ゼラチンを使用した食品、化粧品関連事業
靴製品等の皮革関連事業
ホームページ : <http://www.nippi-inc.co.jp/>

【語句説明】

ラミニン

ラミニンは、基底膜の主成分、 α 、 β 、 γ 鎖からなる500-900kDaのヘテロ三量体の細胞接着性糖タンパク質で、十字架の構造を有します。フィブロネクチン等の細胞外マトリックスの一種で、種々の培養細胞から分泌され、その機能は細胞分化、増殖、癌の転移、神経の伸長等に深く関与しています。

多能性幹細胞

多能性幹細胞とは、種々の細胞へ分化できる能力(多分化能)と分裂増殖を経ても未分化な細胞を維持できる自己複製能を有する細胞のことをいいます。例えば、再生医療への応用が期待されているヒト初期胚より樹立された ES (Embryonic Stem: 胚性幹) 細胞やヒト体細胞をリプログラミングして得られた人工多能性幹細胞 (induced Pluripotent Stem Cells: iPS 細胞) も含まれます。

iPS細胞

体細胞に、数種類の遺伝子を導入し誘導される分化多能性を獲得した細胞のことです。2006 年に京都大学山中伸弥教授らのグループにより、この現象が発見され人工多能性幹細胞 (induced Pluripotent Stem Cells: iPS 細胞) と名付けられました。iPS 細胞は、ES 細胞とほぼ同等の分化多能性を示すことから、薬剤開発、種々の疾患の病態解明や再生医療への応用が期待されています。